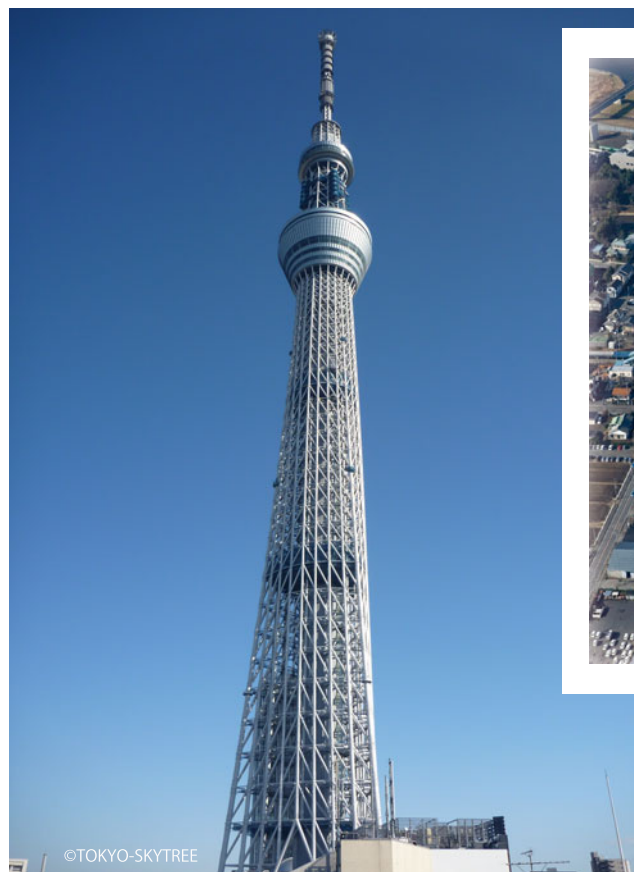
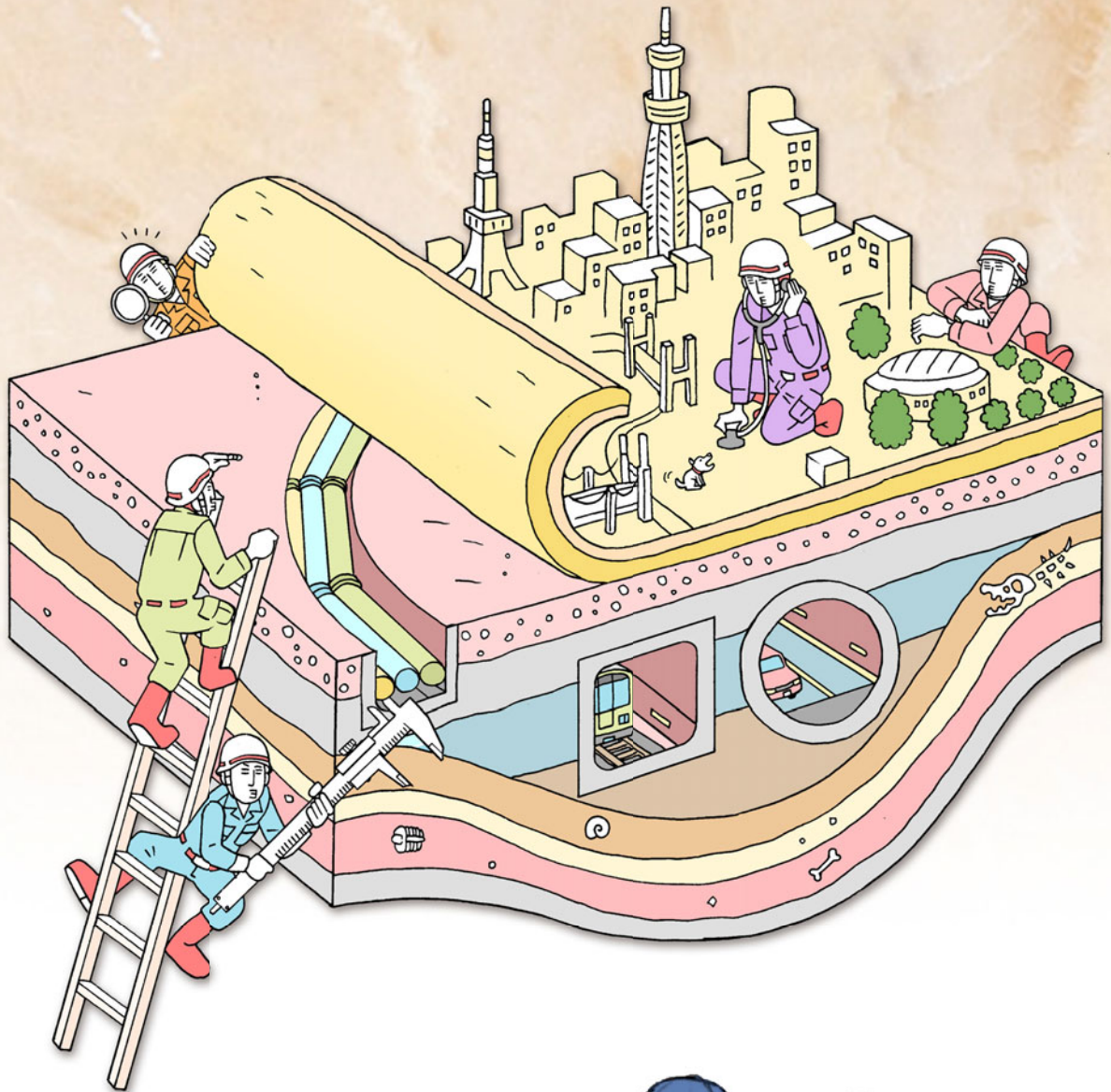


人を
暮らしを
環境を
支えるチカラ



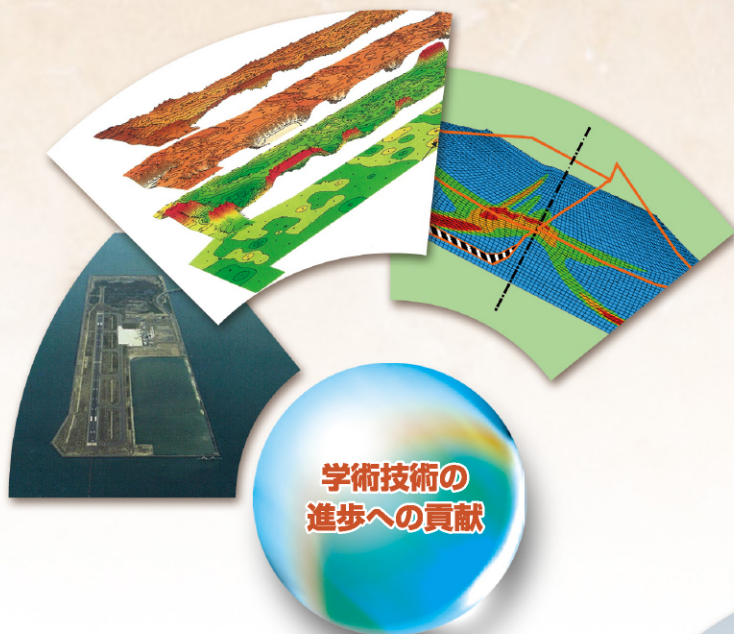
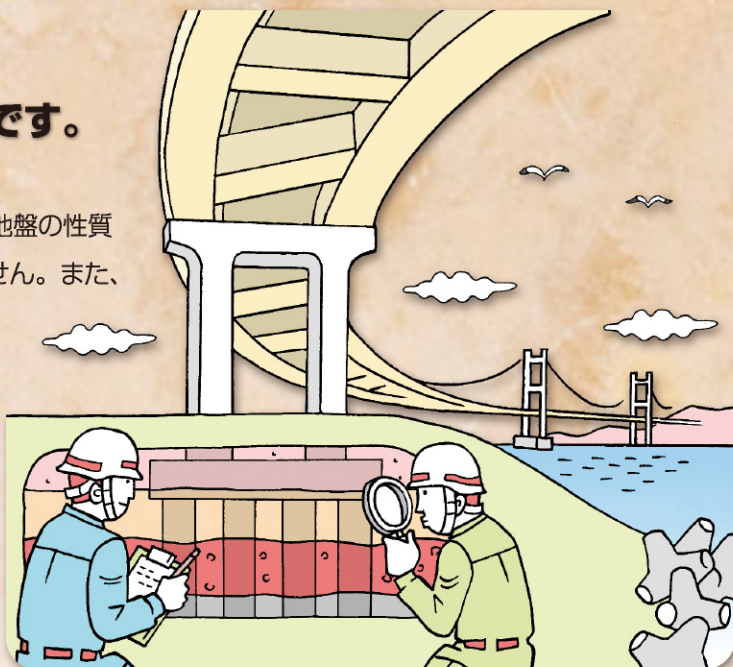
Japanese Geotechnical Society

地中からのメッセージを聞く、見る、考える。



地盤工学会は 日本の地盤技術を担う専門家の集団です。

橋などの社会基盤施設を支えているのは地盤です。その地盤の性質がわからなければ、堅固な施設を構築することはできません。また、新しい土地をつくり出したり、斜面を安定なものにしたり、地下水環境を評価したりするためにも、地盤に関する知識が欠かせません。このような、私たちの生活に関連する地盤についての学術技術を扱うのが地盤工学です。地盤工学会は、日本において地盤工学を担う専門家の集まりです。取り扱う内容が、不特定多数者の利益の増進に寄与しており、内閣総理大臣から公益社団法人として認められています。



地盤工学会は、

1. 学術技術の進歩への貢献
2. 技術者の資質向上
3. 社会への貢献

の3つを目的に掲げて活動しています。



1. 学術技術の進歩への貢献

将来の地盤工学の技術・学問分野の発展、展開を考えながら、学術技術の進歩へ貢献するための活動をしています。



©TOKYO-SKYTREE

▲東京スカイツリーの基礎

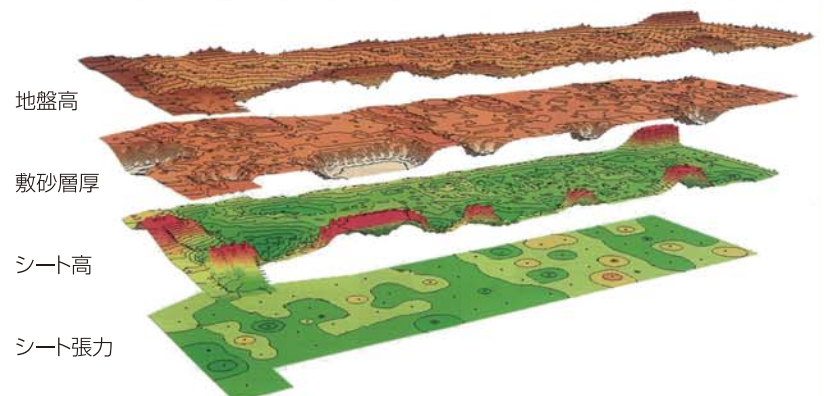
強風や地震に耐える東京スカイツリー。その基礎に地盤工学が活用されています。
(写真提供：東武タワースカイツリー株式会社)



▲高濃度ポリマー削孔で得られたボーリングコア



▲北九州空港の全景



▲GISを活用した施工管理・安全管理

1. 学術技術の進歩への貢献

学術・科学技術の調査・研究

各種の研究委員会等を組織し、学術・科学技術に関する調査・研究を行っています。上記の調査・研究によって得られた成果は、報告会や講演会を開催して、広く一般に普及させることに努めています。また、調査・研究については受託および技術指導も行っています。

国際学会との関係

地盤工学会は、国際地盤工学会 (the International Society for Soil Mechanics and Geotechnical Engineering) の国内組織です。



▲ 国際シンポジウム



▲ 国際会議

調査・試験法の基準化

また、本会は、日本工業標準調査会から、地盤調査とそれに対応した室内試験方法の基準化活動を委託されており、ISO規格の国内審議団体として規格・基準を提案しています。



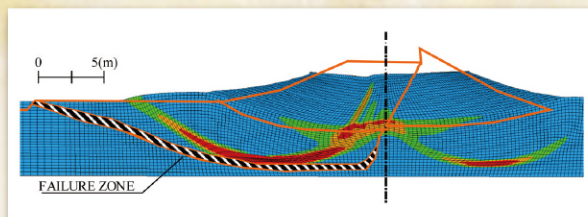
▲ 赤本（試験法）と青本（調査法）



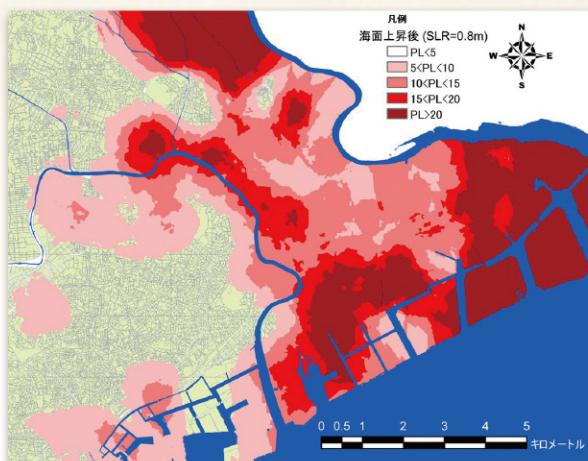
▲ 各種の試験・調査の手引き



▲ 東京国際空港（羽田空港）D滑走路の栈橋構造



▲ 地盤と盛土の破壊時のせん断ひずみ解析結果（赤実線は実際の破壊形態）



▲ 液状化危険度マップの例

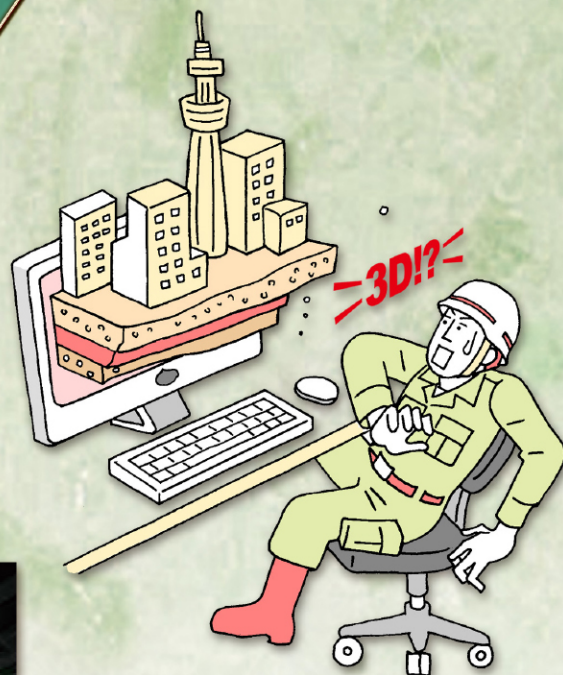
2. 技術者の資質向上

会員をはじめとし、広く地盤工学に係わる技術者の社会的地位の向上のために、技術者の資質向上を目的とした活動をしています。

▼ ダムサイト予定地の見学



▲ シールドトンネルの見学会



▲ 講習会の開催



▲ 海老名 JCT (東名高速～圏央道、2010年2月建設中 提供：中日本高速道路株式会社)

2. 技術者の資質向上

分野横断的集まり

職業別の会員割合は右図の通りです。それぞれの会員の専門分野は、土木のみならず、建築、農業、地質の分野等々、多くの分野の横断的集まりであるところに本会の特徴があります。今後もNPO、NGOなども含め、多くの分野が集える学会としていきます。人文・社会科学分野、環境科学分野、情報科学分野、農業・生物分野、化学分野との連携を通じて、俯瞰的学問展開を目指します。

研究発表会

年に1回開催される地盤工学研究発表会をはじめ各種シンポジウムで論文発表がなされています。これらは、技術者相互の意見交換、情報交換の場になっています。



▲ 発表会の開催

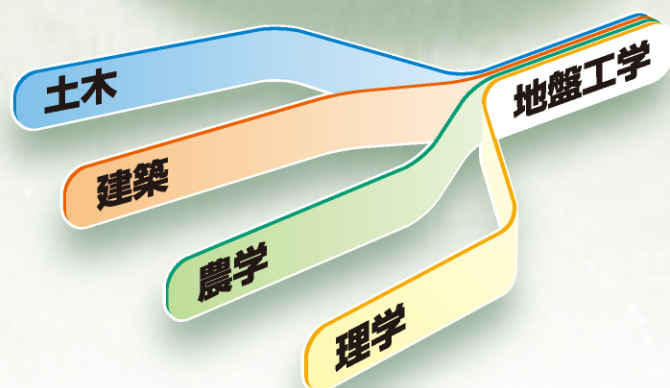
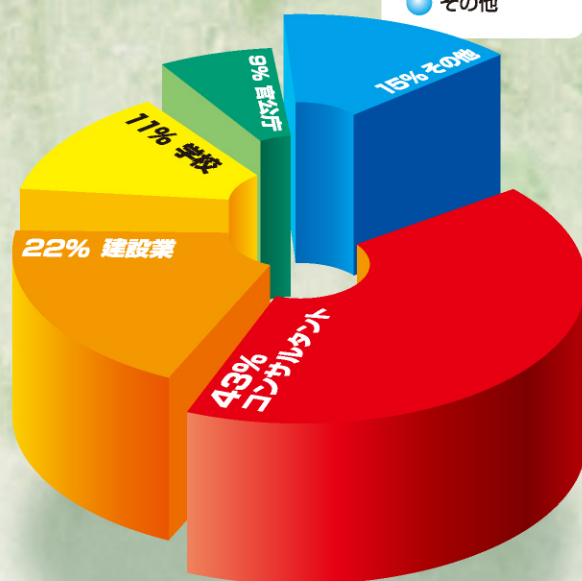
継続的学習の場を提供

地盤工学継続教育制度（G-CPD）を運営し、講習会等を通じて会員の能力向上を支援します。また、建設系CPD協議会に参加しており、他学協会と協力しながら、技術者へ学習の場を提供しています。

技術者個人の活動を支援

各技術者は、学会から地盤に関する技術情報や技術力向上の機会を享受するという受動的な立場にあるだけではありません。公募のあった各種委員会や地域幹事に応募して委員等に就任すれば、技術者自らが公益性の観点から地盤に関する様々な問題の解決に向けた活動をできる立場を得られます。すなわち、技術者の立場において、公平性・学際性を担保した上で、地盤に関する種々の問題に取り組むことができます。学会では、技術者が直面している、地盤と人間に関するあらゆる問題を、学会が取り組むべき対象とするように、取り扱う問題の間口を積極的に広げるスタンスをとりたいと考えています。

▼ 地盤工学会の会員構成



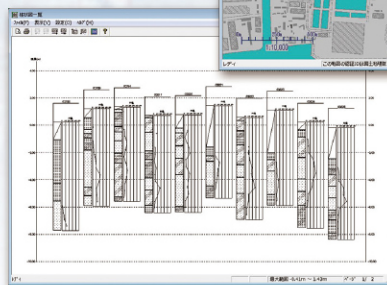
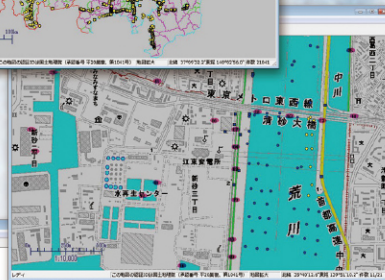
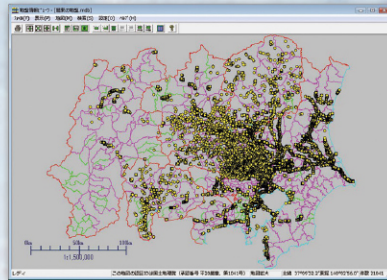
▲ 地域の生態系と一体化した調整池の創出

3. 社会への貢献

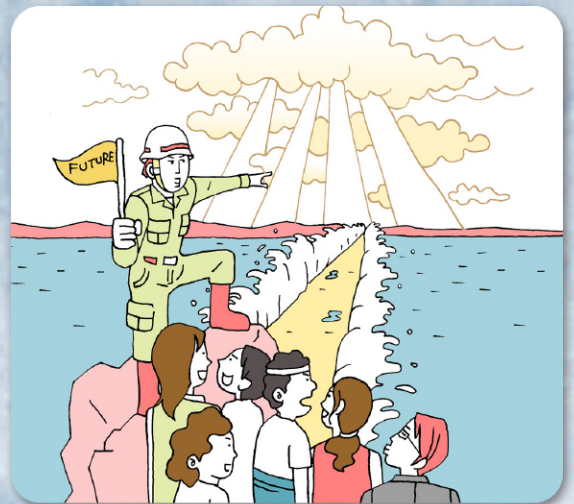
当該学問・技術部門への社会的要請への責任遂行、
学術技術専門団体としての情報収集・発信機能への
期待に応える努力をしています。



▲ 高松塚古墳壁画の保存対策
(西壁女子群像 提供：奈良文化財研究所)



▲ 地盤情報のデータベース化



▲ こども理科実験教室



▲ 東京国際空港(羽田空港)D滑走路全景 (提供：国土交通省関東地方整備局)

3. 社会への貢献

地域密着型の活動

防災・環境・資源・エネルギー・住宅問題など、産学官のみならず、市民に密着した立場もしくは市民を取り込んだ形での課題の克服と合わせて、学会活動を常に社会に向けて発信していくことに努めています。学会は9支部をもち、その中には主な地域グループがあるので、そのグループを中心とした活動を推進しています。

市民向け講座の開催

一般市民向けの講座として、文京区市民講座など、自治体とのタイアップによる生涯教育を行うとともに、文京区役所と共催のこども理科実験教室や、各種出前講座を開催しています。これらは、土や地盤の面白さを市民に伝えるときに、この分野の重要性を理解してこの分野で貢献したいと考える若手を育成するための行事です。

災害緊急調査団の派遣

国内外の地盤災害時には災害緊急調査団を派遣し、人々を守るための知見の集積に努めています。調査結果については、報告会を開催し、社会への情報提供に努めています。



▲ 全国9支部で活動



▲ 泥団子作り教室



▲東北地方太平洋沖地震 液状化の噴砂で砂場ようになった市街地



▲ 豪雨による河川堤防の決壊 (提供：国土交通省豊岡河川国道事務所)



▲岩手・宮城内陸地震 巨大地すべり (2008年6月)



▲東北地方太平洋沖地震 常磐自動車道 那珂地区の盛土崩落 (提供：東日本高速道路株式会社)

3. 社会への貢献

学術論文集・図書の刊行

地盤工学に関する調査・研究成果を、会員、非会員を問わずに発表できる学術雑誌として、地盤工学会誌、SOILS AND FOUNDATIONSを出版しています。なお、出版後1年を経過したものについては、会員、非会員を問わず無料で閲覧・コピーをとることができます。また、電子ジャーナルである地盤工学ジャーナルを発刊し、その内容は発刊と同時にインターネット上で公開しています。この外に、地盤工学に関する図書および印刷物等を刊行しています。



▲ 学会誌



▲ 学術論文集

入会案内

正会員、学生会員、国際会員、特別会員（本会の事業を後援する個人、法人または団体）、としての入会を随時受付けています。

正会員・学生会員の特典（例）

■ 技術・知識・情報の収集

学会誌「地盤工学会誌」（年12号）の配布、「地盤工学ジャーナル」の投稿、「SOILS AND FOUNDATIONS」の定期購読（別途有料）、メールマガジンによる最新情報の受信、本会発行図書等の会員特価による購入、地盤工学研究発表会をはじめ各種のシンポジウム・講習会・講演会・見学会などへの会員割引での参加が可能になります。

■ 学会活動への参加・交流等

本部・支部の委員会の委員としての参加資格が得られ、地盤工学研究発表会（全国大会）などでの発表や学会誌などへの投稿が可能になります。

■ 地盤工学会継続教育システム（G-CPDシステム*）の利用

地盤工学の専門家集団である会員の自己能力の継続的向上に役立つサポートが受けられ、ご自身のCPD記録の確認の他、G-CPD記録証明書の発行依頼、CPDプログラムである各種講習会・シンポジウムなどの検索や申込、自己学習記録の登録などが行えます。継続教育記録証明書は、技術士、APECエンジニアなどの登録要件である「継続的な専門能力開発」の証明に使用できます。

※ G-CPDシステムは、地盤工学会が会員ごとにほぼ全ての学会活動への参加記録（CPD記録）を自動的に作成し、各会員が学会ホームページからその結果を確認できます。

寄附のお願い

地盤工学会では随時寄附を受付けています。

寄附者には税制上の優遇措置があります。

入会および寄附の問い合わせ・申込先

学会本部

TEL：03-3946-8677(代表) FAX：03-3946-8678

E-mail jgs@jiban.or.jp

URL <https://www.jiban.or.jp>



地盤工学会の歩み

60 余年を積み重ね、
盤石の基礎を築いてまいりました。



2010年 10月

公益社団法人地盤工学会として認定

2008年 4月

地盤工学会誌に学会誌名称変更

2006年 3月

「地盤工学ジャーナル」創刊

2005年 9月

第16回国際地盤工学会議（大阪）開催

2004年 3月

JGS 会館の新設

1995年 5月

社団法人地盤工学会に名称変更

1987年 7月

第8回アジア地域会議（京都）開催

1977年 7月

第9回国際土質基礎工学会議（東京）開催

1972年 6月

「土質工学会論文報告集」創刊

1960年 4月

英文雑誌「SOILS AND FOUNDATIONS」創刊

1958年 9月

社団法人土質工学会として認可

1954年 5月

土質工学会設立

1953年 5月

機関誌「土と基礎」創刊

1950年 11月

国際土質基礎工学会加入承認

1949年 10月

日本土質基礎工学委員会として発会



公益社団法人
地盤工学会
 Japanese Geotechnical Society

〒112-0011 東京都文京区千石4丁目38番2号
 TEL : 03-3946-8677(代表) FAX : 03-3946-8678
 E-mail : jgs@jiban.or.jp

【支 部】

北海道支部	hjgs@olive.ocn.ne.jp
東北支部	jgsb-th@tohokushibu.jp
北陸支部	jgskoshi@piano.ocn.ne.jp
関東支部	jgskantou@jiban.or.jp
中部支部	jibanchu@jeans.ocn.ne.jp
関西支部	office@jgskb.jp
中国支部	chugoku@jiban.or.jp
四国支部	nakajima@cee.ehime-u.ac.jp
九州支部	jgsk@jgskyushu.jp

Homepage



<https://www.jiban.or.jp>

Facebook



<https://www.facebook.com/jgspr>